

地域安全学会「東日本大震災連続ワークショップ 2022 in 名取」を開催・研究発表しました (2022/8/5-6)

テーマ：東日本大震災、災害科学

会場：閑上公民館、北釜防災公園、閑上の記憶、名取市震災復興伝承館、閑上復興公営住宅ほか

8月5日(金)～6日(土)、地域安全学会「東日本大震災連続ワークショップ 2022 in 名取」が開催され、当研究所は名取市とともに共催者となりました。同学会では、東日本大震災を契機とした今後の復興と防災について、被災地の現場で議論を深めていくことを目的として、通常の研究発表大会とは別に、同ワークショップを開催しています。これまで2012～2019年にかけて、いわき市、大船渡市、宮古市、気仙沼市、石巻市、釜石市、南三陸町、南相馬市と毎年、震災の被災地をめぐるしてきました。2020年には名取市で開催する予定でしたが、コロナ禍の影響で実施できませんでした。この度、感染拡大防止策を徹底しての念願の開催となりました。第9回目となった本ワークショップには、約70名と例年に比べて倍の研究者・行政・一般の方々が参加し、活発な意見交換が行われました。今回のワークショップの企画・運営は、地域安全学会東日本大震災特別委員会委員長である当研究所の村尾修教授(国際防災戦略研究分野)、同委員の佐藤翔輔准教授(防災社会推進分野)が主に担いました。

5日には、名取市、地域住民、研究者がそれぞれ講演を行い、21件の研究発表の後、行政や地域団体から講評をいただきました。6日には、名取市沿岸部の復興状況を視察する現地見学会を実施しました。研究発表では、当研究所教員が12編を報告し、このうち、丸谷浩明教授(防災社会推進分野)、村尾修教授、佐藤翔輔准教授、北村美和子特任研究員：助教(国際研究推進オフィス)、浅利満理子客員研究員(防災社会推進分野)が登壇しました。発表論文は以下の通りです。

加藤春奈・村尾修：東日本大震災後の名取市閑上地区における新居居住世帯の居住環境評価

北村美和子：東日本大震災の被災地がジェンダーの不均衡によって受けた長期的な影響について

丸谷浩明ほか：東日本大震災の企業の教訓の防災ビルからの発信～物流関係を中心に～

秋元康男・佐藤翔輔ほか：宮城県気仙沼市における震災の教訓等を伝承する職員研修の実践

中川政治・佐藤翔輔：石巻南浜復興祈念講演の検討プロセスと市民参画・協働の取り組み

浅利満理子・佐藤翔輔ほか：コロナ禍における東日本大震災被災3県の伝承活動の変化と今後の展望

渡邊勇、佐藤翔輔、今村文彦：来訪者の防災力に応じた効果的な被災地訪問学習：東日本大震災を事例とした初期検討

佐藤翔輔：ハザード種を越えて災害対応の経験知を発揮できるか：宮城県庁における2011年東日本大震災と2019年台風19号の対応事例

藤本慎也・佐藤翔輔ほか：生活復興館の軌跡の類型化に関する基礎的研究：第1波～第5波名取市生活再建調査から

川見文紀・佐藤翔輔ほか：社会的脆弱性とすまい再建の関連：復興公営住宅への再建に着目して

鈴木由美・佐藤翔輔ほか：Team Sendai(チームセンダイ)による被災自治体職員の災害対応の継承に関する研究～その3：朗読の作成プロセスに着目して

柳谷理沙・佐藤翔輔ほか：自治体職員が行う災害エスノグラフィー調査・編集・活用のプロセスの確立：仙台市職員間伝承プログラムの開発

※著者名は、筆頭者と当研究所構成職員のみ記載

文責：佐藤翔輔(防災社会推進分野)
(次頁へつづく)



研究発表会の様子



学会長・村尾教授によるあいさつ